

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100374		
法人名	株式会社 わかば		
事業所名	グループホームわかばの家 福部		
所在地	鳥取県鳥取市福部町湯山1433		
自己評価作成日	平成27年9月8日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会		
所在地	鳥取市伏野1729番地5		
訪問調査日	平成27年9月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人一人の個性を把握して、個別での対応・支援を心掛けている。</li> <li>・運営推進会議では施設の取り組み、意向を出来る限り理解していただけるように丁寧に説明している。</li> <li>・数名の利用者様に限るが、玄関から庭先、施設敷地内周辺を自由に散歩、趣味活動ができるように自由な暮らしの環境提供を心掛けている。</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>町内会活動等に積極的に参加され、グループホーム開所より5年を経過して、区長や民生委員、駐在所の警官等の運営推進会議委員をはじめ、地域住民の理解や馴染みの関係作りが進んでいます。様々な災害ごとのマニュアルを新たに整備されるとともに、非常持出袋を玄関に備え、毎月の安全点検では施設内の設備や備蓄品の確認を行う等、日常的に災害に備える体制を整えられました。また、非常災害時の連絡網や避難誘導についても、地域の方からの提案を受け、具体的な方法を訓練で確認する等、連携・協力体制が築かれています。</p> <p>管理者を中心に職員間で気づきや提案を言いやすい雰囲気があり、研修にも意欲的に取り組まれています。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内数カ所に掲げ職員のみならず、来所される方にも認識してもらえようとしている。理念についての説明も職員に行い、共通の目標として意識付ける事を心掛けている。	理念は玄関、事務所、台所に掲示するとともに、全職員に配布し、共有を図られています。また、管理者は気づいたことがあれば職員に声を掛けながら、理念が日々のケアに反映されるよう働きかけておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、地域の清掃活動への参加や、事業所の避難訓練には地元消防団の協力をいただいている。地域代表者の方々とは定期時(運営推進会議)以外にも地域情報等についても話し合いをしている。	自治会に加入され、納涼祭や文化祭、清掃活動等、行事の際は相互に参加・協力できる関係が作られています。外出時に挨拶を交わしたり、近所の方が花や野菜を届けてくださる等、地域住民との交流も行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、事業所での認知症介護への取り組みと理解を説明させていただき、運営推進会議及び年始定例会等では、地域の方々には施設主催の認知症勉強会等を提案させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見・要望・情報については、早期に対応するように心掛け、運営推進会議議事録及び次回の運営推進会議等で対応内容について報告させていただき、施設運営、サービス向上に努めている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の状況報告や、災害時の対応、地域交流などについて意見交換が行われ、運営に活かされています。スペースの問題により事業所外での開催ですが、会議前に事業所見学をしていただくなど工夫されています。また、利用者や家族も参加できるよう調整されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員でもある市町村担当者には定期的に挨拶に出向き、施設情報及び地域情報等の情報交換を行い協力関係を築けるよう努めている。	運営推進会議で事業所の状況や利用者の暮らしの様子を伝えているほか、防災マップの作成について相談する等、日頃から市担当者や地域包括支援センター職員との協力関係を築くよう取り組んでおられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する研修会にも積極的に参加しており身体拘束しないケアに関して施設内で共通の認識として取り組んでいる。家族の意向で一人の利用者はベット柵を使用しているが、同意書を作成して家族、施設側も使用について認識、確認している。	玄関は日中は解放されており、利用者は自由に入出入りすることができます。家族の強い希望で常時ベッド柵を使用している利用者が1名いらっしゃいますが、使用しない方法を検討され、家族に理解していただけるよう働きかけをされています。	安全のためやむを得ずベッド柵を使用されていますが、使用しないための検討と、家族の理解を得るための働きかけを今後も継続されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待が見過ごされる事がないよう、課題が起これば会議等で話し合うようにしている。虐待防止の為に研修会にも積極的に参加しており職員同士が虐待について共通の認識を持ち介護業務を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談・必要性があれば活用できる準備は整っており、利用者の中にも成年後見制度を利用されている方もおられ、後見人(司法書士)との情報交換も毎月行っており、情報の共有に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容、重要事項の説明を丁寧に説明させていただき、家族の疑問、不安があればその都度分かりやすくお答えしている。契約後にも疑問等あれば安心・納得されるよう説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等に利用者様の状況、状態について説明しており家族からの意見・要望についてもその都度お聞きしている。また、行事についても日程報告させていただき、行事参加していただけるように努めている。	利用者の意向は日頃の会話から読み取るよう努めておられます。家族からの意見や要望は、事業所に来られた時や受診の時等機会をとらえて話を聞くようにされています。	家族へのアンケートや家族が集まって意見交換や情報交換する場を設ける等、利用者や家族から意見・要望を引き出すための、より積極的な働きかけや工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内会議・研修・カンファレンスを月に1回づつ開催して、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。またそれが、施設運営に反映できるように心掛けている。	職員は、意見や要望があれば日頃から管理者に伝えるという関係が築かれています。利用者の外出支援のあり方や勤務体制の見直し等、職員からの意見や提案は毎月の施設内会議で話し合われ、事業所の運営改善に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心、やりがいを持って働ける環境づくりに努め、職員の意見、要望等には積極的に聞き入れてはいるが、給与や職場環境等十分でないことがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	輪番制・階層別等考慮して研修振り分けの実施をしたり、個々の研修希望なども考慮している。また、施設内研修では職員自ら研修発表することで、個人の主体性・チームケアの連携が深まるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	わかばの他施設との交流の場は定期的に設けられる。運営推進会議委員の地元施設の職員との交流も運営推進会議を通じて行っている。外部研修参加も積極的に行い同業者との交流について配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安・要望を聞かせていただき、安心・納得していただけるように説明・対応をさせていただき、良好な関係が保て穏やかに生活できるような支援を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、これまでの経緯、不安な事に耳を傾け、安心していただけるように努めている。また、気軽に来所・ご相談できるような環境づくりを行い、身近な相談窓口として担当者を配置している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具使用に関しては家族と話し合い、必要性・安全性を説明させていただいてから対応している。また、介護保険・他の福祉施設についても必要性・要望があれば丁寧に説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、出来ないことを見極め利用者を支援される側だけの立場におかず、生活の中で出来る事をしていただき、共通の場、仲間同士で生活する中で自分の役割りが持てるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見、要望のみを聞くだけではなく、利用者本人の生活を考えた上での相談や提案は施設側より積極的にさせていただき、共に本人を支えていると思っただけのように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも気軽に面会にきていただけるような環境づくりを心掛けている。親族の集まり・地元の集まり等、家族から相談があれば負担がないように説明させていただき、馴染みの繋がりに関する理解を求めている。	利用者が頻繁に口にする地名を参考に外出支援に繋げたり、入所前から行きつけの理髪店を利用する等、馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格、互いの関係性を考慮しながら、仲間意識が深まるよう対応、支援を行っている。また、意思疎通が困難な利用者には職員が間に入り、関わりが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、サービス終了後の支援についての説明をさせていただき、必要に応じて本人・家族の相談の受け入れ準備は整っているが、今の段階では、相談・支援についての要望はみられない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向については日々での会話などからくみ取り、把握できるように努めている。また、暮らしの希望においては施設で行える事については早期に対応を行い、必要に応じては家族に報告させていただいている。	利用者個々の思いや意向は、日頃のコミュニケーションや家族との会話の中から汲み取るように努め、利用者の意向に沿ったケアを心がけておられます。	把握された希望や意向が日々の記録に埋もれてしまわないよう、共有や確認のしやすい情報整理への取り組みを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に伺ったり、日々の会話の中で把握できるように努めている。また、入所申込書・アセスメントシートを参考に生活歴等の情報を職員同士で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、関わりの中で状態変化の気付きや出来事を記録・話し合う事で職員同士で心身状態の情報を共有し支援に繋げている。また、一人一人の性格等を配慮しながら過ごし方への支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・介護職員・主治医等の意見を反映させた介護計画にて支援をすすめている。また、カンファレンスにてより良く暮らすための課題を取り上げ・話し合う事で現状に適切な支援が行えるように心掛けている。	毎月のモニタリングと、面会時やケアプラン変更時に家族・本人の意向や生活面・サービス内容に対する要望を確認し、複数の職員でのカンファレンスを経て介護計画が作成されています。計画は6ヶ月ごとに見直され、状況、ニーズの変化に応じて随時見直されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事など個別に記録し、職員間で情報が共有出来るように申し送りや、施設内会議等で話し合い実践や介護計画に反映されるように努めており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに迅速に対応出来るように、業務の申し送り・施設内会議・カンファレンス等で話し合いを行っている。また、利用者の状態・状況が変わればその都度、早期、柔軟に対応出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、運営推進委員・地元代表者・地元消防団員の施設訪問などの機会を設け、事業所及び施設入所者について知っていただけるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診・訪問診療時には利用者の現在の身体状態を主治医・家族に説明している。また、主治医・家族・薬剤師と情報共有に努め適切な医療及び適切な内服(服薬管理)が出来るように努めている。	家族の付き添いを基本として、利用者のかかりつけ医の定期的な受診を支援されています。利用者の状況等は看護サマリーにより主治医へ情報を提供され、受診結果や家族からの聞き取りは、医務記録簿に記録し、職員間で情報を共有されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関することは常に看護師と情報交換を行っている。必要に応じて看護師に看護サマリーの作成を依頼して主治医に適切な状態報告が出来るように努めている。現在は残念ながら看護師不在の状態である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と情報交換を行い、情報を共有している。また、ケアカンファレンスで退院後の支援・対応について話し合いを行っている。お見舞いにも頻回に出向き、家族及び担当医から利用者の状態把握などの説明をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、家族・職員・看護師・主治医と事業所で出来る事について話し合い対応しているが早い段階とはいえない現状である。また、必要に応じての個別の緊急時対応マニュアルを作成している。	昨年度、利用者2名の看取りを実施されています。その際は、利用者や家族の意向を尊重し、その都度主治医と事業所でできること、できないことを相談しながら、必要に応じて個別の緊急時対応マニュアルを作成し対応されました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急の講習を定期的に受け、急変時の初期対応に必要な対応が出来るように努めている。また、急変時のために緊急連絡網を作成しており、スムーズに活用出来るように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害の対応マニュアルを作成して職員が防災意識が持てるよう定期的に防災事項について話し合いを行っている。消防団の方々にも避難訓練に参加していただき、各災害時における協力体制を築いている。	水害や地震、火災の対応について事業所独自の手順書や防災マップを作成され、非常時の避難経路や連絡網も随時見直し、職員間で共有されています。居室入口の色分け表示により緊急時の搬出方法が地域の方にも一目で分かるよう工夫されており、避難訓練では地域の消防団の協力も得ながら利用者の搬出方法等を確認されています。毎月の防災安全点検も実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックにならないよう、言葉掛けには注意を払うように努めている。ゆっくりと伝わりやすい声の大きさを言葉かけを行っているが、とっさに出る言葉や馴れ馴れしい言葉使いも稀にみられる。	日々の会話や声掛けなどに注意を払うように努めておられ、特にスピーチロック(言葉による行動抑制・拘束)については研修により職員相互で注意したり管理者が直接指導したりされています。個人記録は事務所のキャビネットに保管されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに問いかけをゆっくりとして自己決定を待つように努めている。また、自己決定に迷われる場合には、選択肢を少なくする、職員と一緒に考える、本人本位で職員が考えるなどの支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送り、日常のリズムをくずさないよう心掛け本人の意志・希望を尊重しているが、職員の業務、勤務人数等の問題で希望に添えない時も稀にみられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類の着用、本人の好みの衣類を着ていただいている。また、季節ごとの寝具管理・衣替え等の支援も実施しており散髪希望の利用者には、出張理美容でのサービス手配を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物、季節感のある物を出来る限り提供出来るようにしている。準備や片付けが出来方方には手伝っていただいているが、出来る方が限られているという問題点もある。	近所の方からの差し入れの野菜や利用者の食べたいものを取り入れ、季節感のある献立を工夫されています。利用者には、その日の体調や気持ちに配慮しながら、料理の下ごしらえや片づけなどを一緒に取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を記録して、水分摂取の少ない方、好まれない方には、好きな飲み物・口当たりの良いゼリー状にするなどの工夫をし、1日の水分摂取量が確保出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食物残渣が残らないように毎食後の口腔ケアを実施している。また、口腔内の清潔保持のためうがい薬によるうがいも毎食後行っており、夕食後には全ての利用者の入れ歯をお預かりして入れ歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排便パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。排泄動作では自分で出来る事はしていただき、排泄の自立支援を行っているがオムツ等を中止するなどの改善がみえた方は今の所おられない。	利用者の水分摂取量や排泄回数、時間等を記録しながら排泄パターンの把握に取り組み、トイレでの排泄を支援されています。また、便秘の方にはホットパックやマッサージによりできるだけ薬に頼らないよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理の際には便通に良い食材を使う等の工夫をして、水分摂取量の少ない方には多く飲んでいただけるように支援している。便秘時の腹部マッサージ、室内運動等の支援を行い便秘に対する取り組みも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員人数が確保出来ている日中に限られているが、業務都合での入浴になると考えられるが、利用者一人ひとりに入浴に関する聞き取りを行ったが現在の対応にて問題ないとの事だったが馴らされた感は否めない。	入浴の人数や頻度を決めてしまわず、その日の利用者の希望と職員体制で柔軟に対応されています。管理者は夜間の入浴も希望があれば対応できるようシフトの見直し等について職員と検討されています。	今後も改善の方向性についての検討を進められるよう期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・離床の際には、声掛けを行い本人のペースで寝起き出来るような支援を行っている。希望される方には午睡をしていただいている。生活支援において自己決定を尊重出来るように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設で取引のある薬剤師に研修依頼し、毎月薬剤に関する研修に職員は参加しており薬剤・服薬に関する知識、意識向上に努めている。また、分からない点は、薬剤師が施設に来られた際に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などを積極的にしていただき、行事活動を盛んに行い、気分転換・楽しみのある生活を支援している。また、誕生日の方にはお好きな物を召し上がっていただく外食の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や日光浴などを行い気分転換をしていただいている。個別での要望も聞き取っているが、今の所具体的な希望がみられない為行事などによる外出の機会を増やし楽しみのある生活の支援を行っている。	事業所前の駐車スペースでお茶を飲んだり、近所の畑の収穫を手伝う等、戸外に出かける機会を作るようにされています。日常的に庭で花の世話をする等、自由に外出されている方もありますが、定期的な通院が外出の機会となっている方もあります。	業務の都合にかかわらず、一人一人の希望に沿った外出の機会が増えるよう、まずは個別の希望・思いを把握されることから事業所の取組みを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の利用者がお金を所持しておられ、外出の際に買い物をされたり、職員に買い物をお願いする事はあり金銭に対しての支援を行っているが、他の利用者の方はお金の所持はされてはいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、家族等に電話が掛けられるように支援している。また、手紙のやり取りにおいてもスムーズに行えるように利用者の書いた手紙は職員が確認のうえポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品を展示させていただいたり、季節に応じた花などを飾り、生活感・季節感を感じていただけるように工夫している。また、共同空間は常に整理・清掃を行い居心地よく生活出来るように努めている。	施設内の整理整頓を心がけ、掃除は朝昼の2回行う等、清潔感のある居心地のよい空間となるよう努められています。利用者の作品や季節の花、掲示物等により、季節感のある空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間が狭く、独りになれたり、思い思いに静かに過ごせる場所がないため、机の配置や席替えなどをして工夫している。一人でゆっくり過ごされたい利用者は居室に戻られご自分のペースで過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には馴染みの物を使用させていただくように家族には勧めているが、新しく購入される方がほとんどである。また、寝具・清掃等は職員が管理させていただき、居心地よく過ごしていただけるように努めている。	本人や家族と相談しながら、家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具やテレビ、趣味の道具を置くなど、居心地良く安心して過ごせるよう工夫されています。整理整頓を心がけ、安全面にも配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部では危険物・不必要な物を置かず安全面を考慮して、利用者のご自分のペースで安全に移動出来るように努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームわかばの家 福部

## 目標達成計画

作成日: 平成 27年 12月 28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	事業所の玄関には、家族の方からの意見箱を設置しているが、場所的に分かりずらく家族の方も意見箱の存在、意味を理解しておられないと考えられる。又、記入していただく為の用紙、ペンなども用意されていない。	家族の方が意見箱の存在及び設置意味を理解して下さり、運営向上のために気軽に意見等を記載、投稿して下さる。	・家族全員に意見箱設置に関する文書(場所・設置理由等)を送らせていただく。 ・設置場所を目に付きやすい場所に移動して、その場でも書いていただけるような環境を整える。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月